



キンギョの水は、水道水でいいの

そのまま水道水を入れない

水道水には、消毒・殺菌用の薬（塩素ガス）がふくまれています。塩素ガスは、金魚など、えらで呼吸する生き物にとっては、害になります。水道水をバケツなどにくんで、1日おいて置くと、塩素ガスは空気中にぬけていきます。この、くみ置きの水を使うとよいでしょう。急ぐときは、ペットショップで中和剤（ハイポ）を買ってきて、水道水に入れます。これで、塩素ガスは中和されて、金魚の水に使えるようになります。

水は、全部いちどにかえてもよい

水そうの水と、とりかえる水の水温の差が大きいときは、同じ温度になるまで置いてから、入れかえてください。金魚は、水温の変化に弱いのです。

水そうの水を、いちどに全部かえるのではなく、半分ぐらいとりかえるときは、水そうの底の方から半分ぐらい水を吸い出し、新しい水をぬいた分だけとりかえます。

金魚と水温

金魚は、23～25の温度で飼うのが、最も元気です。水温が急に下がったりすると、死んだり、病気にかかりやすくなりますので、注意しましょう。25ぐらいまでは、温度が高いほど、えさをよく食べ、早く成長します。しかし、ふんの量も多くなり、水のよごれ方も早くなりますので、水かえも多くしなくてはなりません。

夏など、あまり水温が上がると、水中の酸素が追い出されて、苦しくなった金魚が、水面で口をぱくぱくさせます。こんなときは、くみ置きの冷たい水を少しずつ入れてやり、風通しのよいすずしい場所に、水そうを移してやります。（監修・杉浦 宏）

